<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4191300313
法人名	社会福祉法人　六親福祉会
事業所名	グループホーム牛津あしはらの園
訪問調査日	平成　19 年　9　月　5 日
評価確定日	平成　19 年　10 月　31日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成　年　月　日

【評価実施概要】

事業所番号	4191300313
法人名	社会福祉法人六親福祉会
事業所名	グループホーム牛津あしはらの園
所在地	小城市牛津町牛津80－1 （電　話）0952－66－6055

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	

【情報提供票より】（平成19年　8月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　18 年 10 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　9　人，非常勤　0　人，常勤換算　8．5

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	1 階建ての　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	33,000～30,000　円	その他の経費（月額）	6,000　円
敷　金	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円		

（4）利用者の概要（　8月20日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	名	要介護2	3	名
要介護3	5	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	87.7 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	徳富医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の静かな住宅街に建つ新築平屋一戸建てのホームである。広大な敷地に多機能事業所が併設され、共通の駐車スペースが広く確保されている。敷地は低いスチールフェンスで囲まれ外部から見通しが利き、地域の景観にとけ込んでいる。ホーム内はオールバリアフリーで廊下の幅が広く、天窓からは自然光が降り注いでいる。業務の基本方針「整理・整頓・清掃・清潔・躾・作法」を職員は心掛け、業務にあたっており、清潔なホームとなっている。職員の笑顔が素晴らしく、理念の「楽しく笑顔あふれるホーム」が実践されている事が窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 今回が最初の評価である。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 全職員で自己評価に取り組み、サービスの質を再確認した。運営推進会議にはかり、より質の高いサービスの改善につなげる計画である。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 入居者の日々の状況や行事報告、委員との双方向の意見交換が行われ、ケアサービスの向上やホームの理解を深められるよう活用している。運営推進会議で出た意見は、会議に活用して日々の業務に活かしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族の面会時に管理者は笑顔で話し、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。苦情受付担当窓口並びに総合窓口と行政機関その他苦情受付機関を明記し、家族に説明されている。玄関に意見箱も設置されている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会に入会し回覧板も回ってくる。老人会や婦人会などの団体や区長と繋がりをもち、情報を得る体制ができている。今後は日頃の生活を通して近隣の住民と交流されることを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とともに暮らし、地域に信頼され、地域に満足される」基本理念のもと、「楽しく、笑顔あふれるホーム」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は業務開始時に理念の確認と唱和を行い、理念の共有に努めている。職員は理念を書いた紙を身につけ、意識しながら入居者と接している。職員の入居者に接する様子から理念が実践されている事が窺える。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し回覧板も回ってくる。区長とは協力関係が築かれ、ご近所の方がホームの庭の草むしりをされるなど、地域交流ができている。ソーメン流しやカラオケで地域の方々と交流したり、婦人会や老人会への参加要請もある。	○	区長や地区役員を通して、地域住民との双方向の関係が築かれ、地域とより一層の関わりができる事が期待される。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回が最初である。評価の結果は運営推進会議に活用し、できる部分を推進していく考えである。	○	評価の意義や目的、結果を全職員が理解し、より質の高いサービスの改善につなげる事が期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員、行政職員などからなり、2ヶ月に1度開催されている。会議では委員と双方向の意見交換が行われ、議事録他関係書類も残されている。運営推進会議委員の活動を通してグループホームが地域に理解されるなどサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、包括支援センターと蜜に連絡を取り合い事業所の考えや実態を伝え、相談できる関係作りに努めている。運営推進会議に市の担当者も参加しており、連携ができている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、家族の面会時に必ず声を掛け話をすることを心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えている。面会が少ない家族には、管理者が電話をして情報交換している。	○	地域密着型サービスにおける家族の意見の大切さを考え、ホーム便りや個々の連絡などで情報提供が積極的に行われることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所における苦情受付担当窓口並びに総合窓口と、行政機関その他苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関に意見箱も設置されている。家族会を開催し、家族の意見の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動が多いが、職員の異動時には引き継ぎ期間を長くとるなど入居者の混乱を防ぐような配慮がされている。	○	サービスの質の確保には職員の異動や離職は最小限に行われることが望まれる。事業所の都合で職員の異動が優先されることが無い様に、入居者と職員の馴染みの関係を重視した異動を期待したい。
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	緊急時の手当てやバイタルなどの看護研修は看護師が、接遇や移乗など日々のケアはその都度古い職員が指導にあたっている。研修開催の情報は全職員に開示されているが、希望者は少ないようである。研修に参加した職員は伝達講習をし、全職員で共有している。	○	すべての職員が地域密着型サービスの質の向上の為に段階に応じた研修を受けることが望まれる。職員が安心して研修を受けられるような支援が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームからの見学受け入れや交流が行なわれている。地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会はないが、個人的に同業者と交流している職員が多く、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらったり、職員が病院や自宅を訪問し顔馴染みの関係をつくりながら入居できる支援が行われている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理方法や花の植え方・肥料の与え方など、入居者が指導し職員と共に作業している。人生の先輩として挨拶の仕方や言葉づかいなど入居者から教えられる事も多くあり、支え合う関係が提供されている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の日々の生活を通して、寛いでいるときや雑談の中、行事や作業に参加している時に聞き出している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの要望を聞き、職員や主治医が話しあって具体的な介護計画が立てられている。職員は入居者の変化や日常と違うことを敏感に感じとる様心掛けている。変化があればその都度カンファレンスがもたれ、情報の先延ばしをすることなく対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の定期見直しと状態変化があった時はその都度見直しが行われている。2週間に1度の往診の時は主治医と話し合い、家族に報告される。問題点が出された時は速やかに話し合いが持たれて介護計画の見直しに活かされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に応じて外泊の支援が行われている。医療連携体制を活かして、発熱などの軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できる等健康管理には万全を期している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される馴染みのかかりつけ医の継続を支援し、安心して医療を受けられるような体制ができている。通院などの送迎は利用者や家族の要望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	要介護度の低い入居者が殆どで、重度化した場合や終末期に向けた話し合いの予定は有るが、まだ確立していない。	○	入居者の状態に合わせ、家族や本人と終末期に向けた話し合いを繰り返し持たれることが期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について研修し、法人全体で理解している。職員の話し方は優しく楽しそうで、入居者に対し尊厳を持って接している様子が窺える。管理者は職員に日頃から感情的にならないよう指導をし職員は心掛けている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケや音楽会・花見やドライブ、買物への参加など、入居者の希望を大切にした声掛けをしている。系列施設との交流に参加される入居者もおられる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を家族一緒にとる事の大切さを理解し、職員と入居者は同じテーブルで楽しく食べている。調理や盛り付け、配膳や後片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。流しや調理台・配膳台は低く作られ入居者が作業に参加しやすい環境が提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	望まれる入居者には毎日の入浴が可能である。一人でゆっくり入浴を楽しめる支援がされている。入浴を拒む入居者には職員が優しく声掛けをし、風呂場に誘導している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや取り入れ、洗濯物たたみ、生け花、園芸、調理、食事の挨拶など入居者の生活歴を活かした役割や楽しみごとがある。挨拶の指導をされる入居者もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望でバスハイクや買物で外出しているが、ホーム内が広く開放的であり、戸外に出掛ける機会は少ない。	○	外出はその人らしく暮らし続けるために重要と考えられる。散歩や買物など、楽しみながら日常的に外出できる支援を期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみで日中は施錠していない。玄関や園庭、駐車場はホーム内随所から見通しが利く構造である。出入り口にセンサーは無いが、出入りは職員の目と耳で確認しており、安全に配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画はあるがまだ消防訓練の実施には至っていない。地域住民との話し合いもまだ行われていない。	○	災害は24時間起こる可能性がある。現実に起こった場合を考え、近隣住民や地元の消防団などの協力を得た避難経路の確認が望まれる。消防署の指導を仰ぎ、消防避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認は毎食毎に行われ、栄養バランスの把握はできている。水分は食事からの分を省いて1日1.2～1.5リットルの摂取を心掛けている。体重の管理もされ、入居者の栄養状態把握に役立てている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下中間の休憩スペースにソファと机が置かれ、寛ぎのスペースとして活用されている。食堂ホールは広く、大きな天窓からは自然光が多く取り込めるようになっている。テーブルには庭で摘んだ花が飾られ、入居者の目を楽しませている。日差しが強い時はロールブラインドで調節されている。トイレは広く、車イス使用可であり、便座は低めで高齢者が使用しやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングと畳敷きが選べ、何でも持ち込み可能である。使い慣れた椅子やタンス、テレビが持ち込まれている。仏壇を持参されている入居者もいる。	○	飾りや写真、カレンダーなど生活を感じさせる物が少ない居室もある。広い壁面を利用し、その人らしく落ち着いて過ごせるような居室づくりの更なる支援を期待したい。